キラリ山形

元気な会員企業

東北を代表する技術と設備―㈱伊藤熱処理

山形市の馬見ケ崎川に架かる千歳橋から南西方向に目をやると、「イネツ」「鐵（てつ）に魂を入れる」「人に心」―の大きな文字が飛び込んでくる。緑色の屋根と工場側面に掲げられたメーッセージで、その中では東北最大級の施設と技術を保有する熱処理工場が稼働している。今、その工場で航空宇宙関連産業への新たな挑戦が始まろうとしている。本県のみならず東北を代表する㈱伊藤熱処理の歩みを紹介する。

同社は１９６４（昭和39）年の東京オリンピック開催の年に、現在のスズキハイテック社の近く山形市銅町で創業した。創業者の伊藤茂雄氏は福島県いわき市の出身。上京し東京・江戸川区で陸軍に納入する車両の部品を製造していた岡野電機製作所に就職した。

当時は太平洋戦争の真っただ中で、日本の敗戦色濃く、米機の空襲が激しくなり、軍需工場が東京、京浜地域を離れて全国各地に疎開を開始。岡野電機製作所は山形市に疎開し、市立第３小学校で操業を継続した。伊藤氏も工場疎開とともに山形に移り住む。戦後、工場はそのまま山形に定着し、自動車部品のメーカーとして油圧機器など製造。一時は20数社に上る下請け工場グループを形成。立谷川工業団地建設を山形市当局に働き掛け、団地完成後、傘下工場を率いて銅町から移転した。

独立し熱処理加工分野を開拓

独立した伊藤氏が取り組んだのが鋼などの金属製品を「熱して」「冷ます」熱処理加工。ひと言で熱処理加工といっても様々な用語・名称があり、代表的なものは、金属製品を所定の高温状態から急冷し鋼を硬くする「焼入れ」、焼入れの後で鋼を粘り強くする「焼戻し」、鋼を軟らかくする「焼なまし」、鋼を強くする「焼きならし」など。

「焼入れ」を例にとると素材の種類、用途によって「浸炭」や、「真空」、「高周波」、「塩浴」など加工内容は多岐にわたる。同社が最も得意としているのは、鋼製品の表面層に炭素を浸透させて表面を硬く、内部を柔らかく仕上げる「浸炭焼入れ」。耐摩耗性や耐疲労性に優れ、衝撃や振動に強いため、自動車のミッションシャフトやクランクシャフト用素材に欠かせない。

また、熱処理加工と並んで、鉄の表面の錆が進行しないようにする「黒染」といったように耐摩耗性、耐酸化性、耐熱性、絶縁性を高める表面処理分野も主要業務としている。その設備、規模は東北最大級であり、技術力は全社員が熱処理国家技能士の資格を取得しており、自動車・産業機械・電機機器・ミシン・油圧機械・建設機械・農業機械・事務機器などあらゆる受発注に対応できる工場へと発展。主な取引先は月３００社を超えている。

「ＪＩＳＱ９１００」を取得

こうした実績をベースに、熱処理分野での航空宇宙関連産業への参入を目指し昨年、航空、宇宙及び防衛分野組織への適用を対象とする品質マネージメントシステム「ＪＩＳＱ９１００」の認証を取得した。中心となっているのは３代目となる伊藤雄平取締役副社長。自動車部品、建設機械をメーンとするとともに、将来の事業発展をにらんで３年前に山形県が開催した講習会に参加し、認証取得に取り組んできた。

並行して航空宇宙産業にかかわる製品を製造している企業を訪問し受注を働き掛け複数の県外の大手メーカーから好感触を得た。目標とするのは「Ｎａｄｃａｐ」の認証取得。国際航空宇宙産業における特殊工程や製品に対する国際的な認証制度で、世界の航空宇宙関連企業から受注するための条件。その取得に向けて設備投資を計画している。

創業者の茂雄氏は東日本大震災の１カ月前に亡くなった。仕事一筋で盆や正月は挨拶回り。その精進が認められ山形県産業賞をはじめ数々の栄誉に輝く。２代目の伊藤裕章代表取締役社長は「品質や技術、生産性向上にひとり一人が誠実に取り組み、確実に成果を上げる『根気と継続』があれば、会社は永続性を獲得できる」と語る。

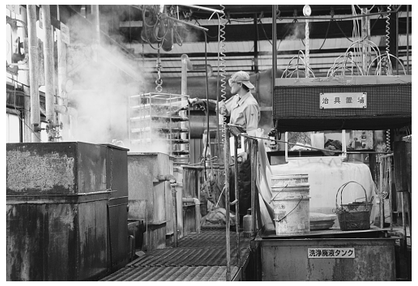
キーワードは「チャレンジ」

今年10月に示した品質・環境方針のキーワードは「チャレンジ」。新規顧客の拡大・顧客満足向上・法令順守と社会貢献活動の向上・スキルアップ、航空宇宙産業参入へのチャレンジを掲げた。

東京ビックサイトで開催された「東京エアロスペースシンポジウム２０１５」に出展し熱処理特殊工程をアピールした。伊藤副社長は「同業者も多く出展していた。そこから抜け出すことは容易ではない。しかし、抜け出さなければ会社の未来もない。覚悟を持ってチャレンジしていく」と決意を新たにしている。

《㈱伊藤熱処理》　設立1964（昭和39）年３月21日。資本金３，８８０万円。業務内容（金属製品の熱処理加工、表面処理加工）。伊藤裕章代表取締役。従業員数72名（全社員が熱処理国家技能士）。グループ会社（㈱イネツ仙台、㈱伊熱いわき）。所在地・〒990－0051、山形市銅町１－８－38．☎622・9452．

社員全員が力を合わせ、品質向上と新たな分野に挑戦（浸炭焼入れ工場で撮影）



熱処理のさまざまな工程で、磨き抜いた技術力を発揮。

航空宇宙産業へ挑戦